

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4491200012
法人名	有限会社 スマイルリース
事業所名	グループホーム陽だまりの丘
訪問調査日	平成21年3月6日
評価確定日	平成21年4月9日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4491200012
法人名	有限会社 スマイルリース
事業所名	グループホーム陽だまりの丘
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233-1 (電 話) 0974-37-3008

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月9日

【情報提供票より】 (平成21年2月4日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 220 円	昼食 390 円	
	夕食 390 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年2月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 73 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島病院 廣瀬医院 高江ニコニコ歯科クリニック 武藤歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 広々とした高台の平地に位置し、周りには田畑があり、近隣の農家がタバコや季節の野菜を作っているため、ホームに居ながらにして季節感を味わうことが出来る。また、秋には近くの山にどんぐり拾いに行くなど自然に触れ合う機会が多く、自然環境に恵まれている。
- 2 管理者が地域の老人会の集まりなどで認知症の話をするなど、地域に積極的に向き住民にグループホームへの理解を働きかけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果に対しての改善シートは管理者が作成したもので、職員全員の共通認識が無いため改善がなされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的については職員に伝えたり、評価項目についても目は通してはいるが全職員での話し合いは行われていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	幅広い立場の人が参加し2ヶ月に1回行われている。自己評価の報告や施設内の状況、利用者のプライバシーを考慮してケース記録を公開し、アドバイスを受けサービスの向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や利用料請求書の送付時に職員の異動や利用者の状況を報告はしているが随時に個別の報告はされていない。家族の意見や苦情など言いやすいような事業所側からの積極的な働き掛けが少ないため意見が運営に反映されるまでには至っていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や祭り、小中学校の運動会など積極的に参加している。また、新年には地区の獅子舞が来たり、保育園児が定期的に訪れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念はあるが、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくための事業所独自の理念がつかられていない。	○	地域の中での活動も少なく、積極的な取り組みがなされていない。地域密着型サービスの役割が反映されるような、事業所独自の理念を作ること期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回行われる勉強会で理念に関する話し合いをしたり、朝のミーティングで理念を読み上げるなど職員全員に周知を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭り、小中学校の運動会など積極的に参加している。また、新年には地区の獅子舞が来たり、保育園児が定期的に訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的については職員に伝えている。評価項目にも目は通してもらっているが、全職員で話し合いは行われていない。前回の評価結果についても改善シートは作成しているが、職員全員で改善についての話し合いは行われていない。	○	評価についての改善点は全職員と話し合い共通認識のもと、今後は改善シートに基づき具体的に取り組むことが求められる
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い立場の人々が参加し2ヶ月に1回行われている。その会議の中で自己評価の報告、施設内の状況など報告している。また、利用者へのプライバシーを考慮した上でケース記録なども公開し、アドバイスを受けサービスの向上に活かしている		

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設内でのヒヤリ・ハット内容を市に報告したり相談をしたりしている。何かあると出向いたり、電話をしたり折に触れ情報交換を行っている。市の職員もよく立ち寄っている。また、老人会で認知症についての講話を施設職員が行うなど市町村と共にサービスの向上に取り組んでいる		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や利用料請求書の送付時に職員の異動などを知らせている。利用者の行事への参加などは、写真を交えて知らせているが、随時に個別の報告はされていない。	○	職員の異動や退職、日々の暮らしぶりなど家族が知りたい点を考慮し、具体的に報告が求められる。なお、ホーム紙「家族通信」の再開を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や年2回の家族会の時に意見を聞いている。しかし、家族にアンケート調査を行うなど事業所側からの積極的な働きかけが少ない。そのため家族からの意見も余り聞かれないので、意見が運営に反映されることも少ない。	○	家族にアンケート調査を行うなど、積極的に意見を引き出す工夫や場面作りを行い、出された意見を運営に反映していくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の担当職員は決めているが、担当に関係なく皆で常日頃から関わるように柔軟な勤務体制をとり、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、内部研修は行っているがパート職員を含め、経験や習熟度に応じた職員個々に対しての段階的な研修計画が立てられていない。	○	パート職員も含めた全職員の質の向上を図るためにも、職員全員が段階的に研修が出来るように研修計画を立て、研修の機会の確保を図ることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回行われる県のグループホーム・宅老所連絡会に加盟し、職員が交代で参加しているが、地域の他のグループホームの見学や交流はほとんど行われていない。	○	地域の同業者で地域密着型事業所の連絡協議会を立ち上げているので、今後は連絡協議会が実際に機能することで交流や勉強の場になり、サービスの向上につながることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に施設を見学してもらったり、管理者、ケアマネジャーやスタッフが入所希望者の家庭訪問を行っている。入院先の病院を訪問するなど馴染みの関係作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意だった料理の話聞かせてもらったり、野菜づくりの話聞かせてもらったり利用者に教えてもらう場面づくりに配慮している。また、包丁を研いでもらったり、利用者の得意な能力を引き出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の部屋を訪れたり、そばに寄り添い接する中で言葉や表情からくみ取り把握するようにしている。意思表示の困難な利用者に対しては家族の面会時に情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を大事にし、利用者が自分らしく暮らせるように、スタッフと一緒に考えて介護計画を作成している		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の定期的な見直しと共に、利用者の状態変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じてかかりつけ医の受診の送迎など行っている。墓参りやふるさと訪問、親戚訪問など利用者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望によって、かかりつけ医の受診に応じている。基本的には家族が同行するか、送迎を行うようになっている。家族の状況や要望により職員が代行するなど、適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について必要があるときは看護師や家族とは話し合いはしている。施設としての方針が無い場合全職員で対応の方針が共有されていない。	○	利用者や家族が安心してサービスが利用できるように、施設としての終末期、重度化の対応方針を定めることが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティングや内部の勉強会など、機会あるごとに利用者へのプライバシーの保護や、記録など個人情報の保護について周知を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の状況に応じて食事時間をずらしたり、散歩をしたり利用者の思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容については利用者の希望を取り入れている。一緒に作ったり、片づけを一緒に行うなど一連の流れを職員と一緒に行っていない。また、職員がおなじテーブルでおなじ食事をし、食事が楽しいものとなるような支援がされていない。	○	一連の食事づくりを職員が一方的に行うのではなく、利用者の役割を見出す支援が求められる。なお、利用者と職員が同じ食卓を囲み同じ物を楽しく食べることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中、週2回の入浴しか行われていない。	○	事業所が決めた曜日や時間帯に合わせるのではなく利用者の生活習慣や希望に合わせた支援が求められる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意思表示の出来る利用者には役割や楽しみごとがあるが、アセスメントが充分に行われていないため、1人ひとりに会った役割や楽しみ、気晴らしの支援になっていない。	○	入居時、入居後のアセスメントを充分に行い職員が情報を共有し、一人ひとりの役割や楽しみごとを見出し支援していくことが求められる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本人の希望でふさと訪問を行ったり、日常的にも散歩に出かけている。また、重度の利用者も車いすで戸外に出るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子が見られたら、さりげなく声を掛けたり一緒についていくなどしている。利用者の安全面に配慮しながら、日中鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年4回、避難訓練を行ったり、災害時の備蓄の確保や災害時の避難場所にもなっている。昼夜を通した訓練や、地域の人々との協力体制が充分取られていない。	○	事業所側が地域の自治会への働きかけや、運営推進会議を通しての協力体制を検討しているので、今後に期待したい

外部	自己	項 目	取り組みのこと実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食ことや水分の摂取状況をチェック表に記録し職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、おかずの匂いが感じられる。また事業所の所有する畑には季節の野菜や花などが植えられていて、利用者の過ごす居間から眺められる。居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していたタンスや小物、亡くなられたご主人の写真や家族の写真なども飾られている。また、カーテンや寝具類の持込みや、ベッドの配置なども一律ではなく利用者の生活スタイルに合わせている。居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 陽のあかりの家
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市千歳町新殿 1233~1
記入者名 (管理者)	管理者 首藤 美枝子
記入日	平成21年 2 月 2 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	朝のミーティングや朝礼後全員で理念を語りエール周知徹底する取り組みをしている。	理念に対する小情報の共有化を図るから、職員教育に取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念(介護)は、常に共有するよう、又実践するよう日々取り組んでいる。各名札の裏に理念を記入している。	職員各自復読し、理念に基づいたサービスを提供するよう心がけている。月1回の勉強会で理念に関する話合いを行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の高齢者と施設の利用者の交流の場を持つようには交換している。運営推進委員会で理解を求めている。	○ 陽に通り通信など今後広報紙を充実に行きたい。 地域高齢者の集いや老人クラブなどに積極的に出て行くよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	家族や知人の方からよく訪ねて頂いている。近隣に住んでいる反達やお宅にいらしてはらよりお伺い交流を図っている。	近隣の居住家はないが、利用者の家から地域にある家族や反達に気軽に立ち寄り日常的なおつきあいを出来ている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、ふる里振興会、祭り、小中学校の運動会などに積極的に参加している。定期的に近くの保育園児の園内へあり、利用者との交流を行っている。	新年には地区の獅子舞に来て頂き、獅子舞に合わせたお祝いなどあり、お正月気分を味わってもらった交流を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成への貢献として、高校生や看護専門学校の実習を受け入れ、積極的に取り組んでいる。	○	介護の知識を独居老人のみなさんや在宅で介護されている方に認知症ケアの啓発に努め取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義、目的など全職員(職員)に伝え、ミーティングで話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。	○	評価の結果を文書にして、今後の更なるサービスの向上に活かすように努めている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議におき意見を全職員に報告し、改善点については早急に改善するにはどうしたらいいか話し合い、取り組むようにしている。		会議の意見と大切に受け止めて、意見を活かしてのサービス提供に向けて取り組んでいる。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者の集団指導や現地指導とふりかえり質の向上に取り組んでいる。		市町村の意見と文書にして地域密着型施設の役割に近づけるようなサービスの向上に取り組んでいる。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会を持ち制度の理解が全職員に行き渡るように、話し合いをするように努めている。研修会の場にも積極的に参加に行く。	○	今後勉強会にて権利擁護に関する制度理解と活用など学習し向上するように取り組んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対あってはならないことで十分注意し見過ごさないように努めている。		ミーティング、勉強会の折に職員に周知徹底するように取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の入所時に契約を説明し、同意を得て、家族の意見や要望を重視している。		リスク、重症化、看取りなどについての対応や、医療機関との連携体制など入所時及び家族の面会時の話し合いを行うようにしている。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本位の運営に心がけている。 個別ケアや寄り添ったケア時、不安材料に成るような思いはないか個別ケアの対応にしている。		利用者の何気ない言葉や態度から、その思いと察するようには接している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当スタッフより家族便り又は行事写真など送り状流しを報告する際に取組んでいる。	○	家族通信を月に1回発行しているため、体系的に実施している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情意見箱を設置している。 定期的に行事に応じて家族会を開催し、話し合いの中で意見を吐く場を設けている。		折々の面会時に意見や家族の思いを伺うように対応している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の勉強会などに意見を聞くようにしている。		管理者におかれたい意見や苦情は、管理者会議に反映するようにしている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤勤務体制にゆとりを持って取り組んでいる。 ワークセリングを実施している。		柔軟な体制の取組むために配慮している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりに伴い、利用者にも不安を抱かせるように気配りし、顔馴染みの職員で対応しながらダメージを防いでいる。		職員の移動や離職をいかに最小限に行うように運営者に依頼している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	ほとんどの職員にもチームの一員として、駅場内勉強会(研修会)に参加し共有の意識を持って働くために取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	連絡協議会を発展させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	職員同士の人間関係を把握して、よい雰囲気を作り上げるために取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	希望を持って働き続けられる職場にはしていきたい。その為に運営者は労務管理を良好に考え、各自が向上心を持って働けるように努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	職員と利用者から出る丁寧な信頼関係が確立できるように又、取り組み方に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	これまでのご家族の苦悩や今までのサービスの利用状況をわかりやすく信頼関係を深めるように支援していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		相談を受けたら、すぐに検討して対応するために取り組んでいる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		本人の安心したサービス利用につながるために、徐々に馴染み作りや雰囲気作りに合わせて取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		得意になった料理や野菜作りやイベントの話題を通じておたけに共感しての場面作りに共に支えあう関係構築している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		職員はご家族の思いに寄り添い、施設において、家族に同じような思いで利用者サービスと共に支えて行くために取り組んでいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		ご家族の愛情に勝るものはないので、本人とご家族のよりよい関係作りと関係の大事に支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		美容院や墓参りに地区にお出かけや催し物に参加し、今の生活習慣を継続的に支援し取り組んでいる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		利用者同士の関係からうまく行くように情報を職員が共有し、日々の変化に早く気づくように注意深く見守り支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○	サービスの利用が終了した後も、今までの関係を大切にして、その後も情報交換を継続に行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		意思疎通が困難な利用者に対しては、面会の折に家族より情報と少しでも多く得るようになっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		アドバイザーに十分注意しながら、職員が利用者や家族と馴染みの関係を築きながら、これまでの暮らしと捉えながら取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		本人の全体像を把握し、見落としされている部分と暮らしの中で発見していくように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		本人・ご家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		介護計画を見直すためにモニタリングを行う。サービス担当者会議を定期的又は必要時スタッフ会議で開いて、その人らしい生活をおくるように取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録をファイルにサービス計画書と添付し、プランに添ったサービスを提供されるように取り組んでいる。	介護計画にそって実践されているかを日常的に記録していくために取り組む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	送迎などの支援を行う場合は、ご家族にゆとりを連絡し、行くようにしている。今後引き続き行うこと、車の事故に対する心配がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	運営推進委員さんに、老人会代表・自治会長・民生委員、意見者を入れて、各方向き意見と伺い、地域資源と協働に行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		他の事業所のケアマネジャーとの連絡を必要時取り合うようにしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		地域包括支援センターとの連絡・調整を取り、利用者や安心に暮らし続けるように取り組んでいる。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医や訪問診療との関係構築、適切な医療を受けるように支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		ご家族の希望で、認知症の専門(脳神経外科)病院に家族が同行して治療を受けたいと改善するように取り組んでいる。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		看護師と協力医療機関との連携も密に取れる体制を確保し支援している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		入院されたご家族や利用者の心身のダメージやストレスを軽減するよう、家族と協働し、医療機関と相談しながら退院出来るように取り組んでいる。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	終末期における医療者機や設備がないので、主治医のいる病院との連携により状態を見極めて対応して行く。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		本人・ご家族の要望があり、自然死的な状況であれば看取りも施設において対応することも今後必要とされる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		暮らしたケアの継続が保たれるように移行先へ今後のケアを伝達する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティング後「人間の尊厳を保障する」の理念を朗読し、職員意識(口)に努めている。		プライバシーの保護と個人情報の守秘義務の周知徹底と常日頃より学習会を通じて教育指導のから支援している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉でははっきり意思表示が出来ない利用者へ顔の表情で意を疎通を図り、利用者の目の字にみるサインで理解出来るよう支援している。		食事の好みや余ハム・メニューを(常)に自分の思いと反映する支援に取り組んでいる (ADLにおいて自己決定と大半に支援する。)
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりの体調や要望を優先するよう暮らし作りに配慮しながら個別的に支援している。		一人ひとりのその日の思いや状態に柔軟に対応するように努めている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に本人の思いを大事にし、その人らしい身だしなみに応じている。 週1回の美容クラスでおしゃれを楽しく支援作りをしている。		ご家族の意向で馴染みの美容院でカットや髪染めを行っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食卓の盛り付けなど可能な方になっていながらの下ごしらえや鍋料理の煮えや揚げ焼きの濃さを出来る部分は一緒にやって頂き食事作りを楽しく時間を待つ方に支援している。		テーブル拭きの出来る人には本人の思いを大事にして出来る部分はやって頂いている。おむつ交換では意欲的にギブをかわして貰っている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好を(常)におやつ作りの目安にしている。お酒の好む方には季節の料理に用意している。		本人の嗜好品は生活の中で取り入れるように支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		オムツ使用しないで尿リハビリ使用し、又紙パンツにておくる限り、トイレ誘導にて排泄を支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		その日の入浴を望む場合は、足浴器にてウォーミングアップ又無理な入浴は与えるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		夕方から落着いた一人ひとりの思いの時間を過ごして頂き、就寝に向けて心身の安定に工夫しながら安眠を促し時には軽いお茶や夜食を摂っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		遠出の外出や地域の行事参加などは、利用者の意向に添って行い、身だしや気晴らしになるように取り組んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		ご家族より、お金を預かって、事業所や管理している外出時など、少額でも千元に持たせて自分でお金の取扱いの支援を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		日常的に車引き歩行や車椅子介助などで戸外散歩し、季節感を感じてもらっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		年間行事又は月間行事の中に利用者の希望に添って場所、職員数、午後などを調整しながら外出支援に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は、受話器を移動して、家族にかけたり、家族からの声と又こちらからの声と交換している。日常的に電話や手紙をおせるように支援している。		担当職員が手紙状と一緒に書き添え、代筆し、支援している。 利用者の思いや意向に配慮対応するようにしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際玄関までの送迎に気を配り、いつでも気軽に立ち寄れる雰囲気作りには心がけている。		ご家族の希望があればご家族様のお声にお気軽に出来るように支援している。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロケアに対する職員の共有認識を全員に徹底するように取り組んでいる。		拘束のないケアと高齢者の人格尊厳とケアに支援するように努めている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動の受容している中で、出て行く気配と職員の見守るようにより、職員のネットワーク作りとチームプレーで支援出来るように取り組んでいる。		職員の目配りと気配りとケアにて、事故防止への支援に努めている。 職員は毎月頃ミーティングで情報確認する様にしている。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の声かけの確認可能な利用者へ共有する場所や記録などを行い、常に安全に配慮している。		夜間時は利用者の出入り(居室)を一瞥出来る空間に職員が位置するようにして、利用者の安全確認に留意している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、十分に検討してから、取り組んでいる。		現在特に保管している人はないが、必要時検討するに決まっている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に個人に予測される危険を徹底し、事故未然に防ごうと話し合いや工夫を行っているから対応している。		職員の共有意識のネットワーク作りが必要である。 ヒヤリハット記録後の検討会を行って行くこと。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当法や蘇生術の研修を行い、全ての職員が対応出来るように定期的に行っている。		緊急時や退室時の対応として、緊急連絡体制図に基づいて連絡を取り合って対応できるようにしている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に(平均回)に避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を行っている。 近頃は人家から出て協力を仰ぐ状況ではあるが、地域への働きかけは検討している。		協力体制については地域の自治会に声をかけ、今後迅速推進委員会と連携して行いたい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの発生しやすい状況の利用者の家族には、面談時や家族会の際、日常の状況を説明し、安全支援に對此の理解を促している。		安全面への取り組みを家族に伝達するために、サービス計画書の中に入れている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、その日の食欲や顔色、様々なる変化を日々観察している。		毎日の観察により、少しの体調変化も見逃さず、早期発見に努め、必要時主治医に連絡している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護士を中心に服薬マニュアルを作成し、又方薬は、朝・昼・夕と分類し、どうして服用出来るように管理している。	○	全職員が薬の内容と把握し周知徹底できるように勉強会に機会を捉えて行きたい。 (2月10日)
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために、繊維質の多い食材メニューを多く取り入れる工夫に取り組んでいる。		毎日の生活の中で、散歩したりレク活動で体を動かす機会を多く取り入れ、トイレで自然排便を促すように取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯みがき(義歯を含む)や口腔ケアは必ず実施している。 舌の方には綿棒と使用レバーに取り組んでいる。		口腔ケアは感染防止に連なる為、習慣的に実施している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		一人ひとりの好みを考慮しながら、献立し、栄養のバランスに取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）		玄関に常時消毒剤やマスクを設置し、利用者に対する感染予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		生活の場としての衛生管理には十分配慮している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		地域の方との面会など気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに取り組んでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で過ごす居場所作りに取り組んでいる。有線放送を活用してミュージックマシーンをやっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		共用空間の活用には工夫を凝らすべく、支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家と同じく生活を送るために、今迄愛用していたタンスや小物入れ、家具などを移している。居心地の良いライフスタイル作りに工夫している。		元々おれは、御主人の専断を思い、お深い品物を持ちこまれて安心に暮らしかねる支援を行っている。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、リビングなど定期的に換気し、温度調節し、利用者や快適に過ごせるように配慮している。		トイレは換気扇と消臭剤を要具がある工夫をしている。 部屋・トイレに臭い消し剤を置いておく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立を意識して、利用者の便や環境作りと安全に生活出来るように見直し取り組むために努めている。		日常的に利用量の多い部分を中心に安全確保に自立へと支援しながら対応している。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ADLと観察しながら、安全に暮らせる環境作りをして事故を防ぎ、自立を促すために支援している。		暮らせる空間作りと安全に自立しやすい場面作りに配慮している。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花を植えたり、大田には野菜類を栽培し、草取りなど可能な活動作りの支援をしている。		暖かい季節には玄関前に椅子を設置し、日向ぼっこなどの工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 本人・ご家族の思いや要望に合ったサービスを提供できるように全員で取り組んでいる。
- ② 食べることに人の思いや関心を大事にして、食べない原因を追究して食の楽しみ作り（家族との味のある食卓料理 スキヤキ・セキソハ・フストプレートでのホットケーキややきそばなど）を行っている。
- ③ 余暇活動（多くのメニューを用意）を通じて心の安らぎと楽しみを確保し、昔の思い出を感懐して懐かしさにレク活動に取り組んでいる。